

2018年度第1回 町田市子ども・子育て会議

大地沢青少年センター検討部会 議事要旨

【開催概要】

日 時：2018年6月25日（月）
会 場：防災情報司令室2

【議事次第】

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 議題
 - (1) 大地沢青少年センターの現状について
 - (2) 大地沢青少年センターの課題について
 - (3) 利用者アンケート及び他自治体等への調査について
- 4 その他
- 5 閉 会

【配布資料】

- 資料1 大地沢青少年センターの現状と課題について
資料2 アンケート調査（案）
資料3 他自治体・受託事業者調査項目（案）

2018年度 第1回 大地沢青少年センター検討部会 委員出席者

大地沢青少年センター検討部会 委員

氏名	所属	出欠
◎金子 和正	東京家政学院大学	出
関野 鎮雄	町田市法人立保育園協会	出
馬場 昭乃	町田市社会福祉協議会	出
土田 昇	町田市公立小学校校長会	出
澤井 宏行	町田商工会議所	出
川口 雅子	町田市青少年委員の会	出
井上 正行	一般財団法人相原保善会	出
青木 仁	町田市大地沢青少年センター運営委員会	出
平山 富士雄	町内会・自治会連合会	出

◎：部会長

・備考：傍聴者 0名

2018年度 第1回 大地沢青少年センター検討部会 事務局出席者

氏名	所属	出欠
三橋 薫	子ども生活部長	出
石坂 泰弘	子ども生活部子ども総務課長	出
永野 修	子ども生活部大地沢青少年センター所長	出
中村 考志	経済観光部観光まちづくり課長	出
守田 龍夫	都市づくり部公園緑地課長	出
金木 圭一	学校教育部指導課指導室長兼課長	出

子ども総務課事務局：石崎 進、吉田 織子、石川 浩二

【議事内容】

1. 開会

子ども総務課担当課長：皆さま、こんばんは。子ども総務課石崎と申します。議題に入るまで、進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、2018年度 第1回 町田市子ども・子育て会議 大地沢青少年センター検討部会を開会いたします。全員の委員の出席をいただいておりますので、会議は有効に成立しております。

なお、本部会についてですが、5月22日に行われました町田市子ども・子育て会議で市長より大地沢青少年センターに関しての諮問があり、より掘り下げた議論を行うため、部会の設立について承認をいただきました。本部会で検討した内容は、町田市子ども・子育て会議に報告し、答申いたします。ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

では、議題に入る前に、当部会は本日が初めての開催となりますので、事務局からこの会議の運営について、お伝えいたします。

会議の公開等についてですが、「町田市審議会等の会議の公開に関する条例」の第3条の規定により、原則、公開といたします。しかし、審議内容によっては非公開とすることができます。

会議の途中で、傍聴の方が入退室されることがありますが、審議はそのまま続けさせていただきます。

議事要旨作成のため、会議内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承くださいと思います。また、議事要旨の確定につきましては、会議終了後に議事要旨案を事務局で作成いたします。作成されたものを当日出席された委員全員に目を通していただき、確認後に、確定することといたします。

発言する際には、まず挙手をしていただき、会長に指名されてから発言をお願いいたします。議事要旨作成のため、発言の前には、所属は結構ですので、ご自身のお名前のみ、よろしくお願いいたします。

説明は以上となります。それでは、会議の公開についてですが、本日、傍聴を希望の方はいませんのでそのまま進めさせていただきます。

それでは、資料の確認に入ります。

【配布資料の確認】

2. 委員紹介

【各委員の自己紹介】

3. 議事

(1) 大地沢青少年センターの現状について

[資料1「1 大地沢青少年センターの現状について」の説明]

青木委員：運営委員会でも実績等の報告はいただいている。宿泊利用等は減少傾向にある。自主事業については、PR方法が課題であり、うまく周知できていれば参加者が多い。また、ここ1、2年では事業の組み換えなどをして参加が多い事業に切り替えているので、自主事業の参加者は増えている。

馬場委員：運営委員会と市の役割分担はどうなっているか。

大地沢青少年センター所長：市の直営であるが、運営に関して運営委員会から意見をいただいている。

井上委員：PRはどのように行っているか。

大地沢青少年センター所長：広報、ホームページ、小中学校へのチラシ配布を行っている。

関野委員：6月の保育園長会で、利用についてアンケートを取ったところ、日帰り利用は約8割、宿泊は約6割と、かなりの園が利用していることがわかった。自己紹介の中で私の園では利用したことがないと発言したが、やはり交通アクセスがネックとなっている。大地沢にも送迎バスがあるが、距離がネックになって利用していない。園長会で利用回数もアンケートしたが、年間12回、毎月大地沢に遊びに行っているという園もあった。

平山委員：大地沢夏まつりは、当初は市内全域から人が来ていた。ところが最近はまだらになっている。シバヒロができて毎週のように催しをしている。中心市街地に住んでいる子どもや親は、そっちに行った方が楽である。自転車で行ける範囲、またはバスに乗っても乗り継ぎが必要ない距離ということで集まっているのではないか。最近の大地沢夏まつりは顔見知りの人、相原の人しかいない。大地沢独自の魅力で「行ってみようか」となるものが必要。

川口委員：大地沢夏まつりで、無償で配布する大地沢汁を作っているが、食事を出すブースがすごく減っている。町田市では保健所がすごく厳しくなっている。以前は野外炊事場で調理していたが、今は無理ということで試行錯誤している。やはり食べ物のブースがたくさんあれば親子連れも来やすいのではないか。ひなた村でも炊事場がなく調理できないので、お子さんがすごく減っている。そういったところも考えていかなければならないのかなと思っている。

青木委員：先日運営委員会が開催された。以前はピザ作りをやっていたが、保健所の指導でだめということになった。また、なんとか参加団体を増やして、人を増やしていかなければいけないという話になった。夏まつりももう少しPRに力をいれなければいけないと感じている。相原駅からシャトルバスでしか来

られないということでそれで躊躇される方も多い。3年前の大雨から減少傾向にある。

(2) 大地沢青少年センターの課題について

[資料1「2 大地沢青少年センターの課題について」の説明]

澤井委員：アンケートにも及ぶ話だが、認知されていないのか、認知されているのに利用しないのかを整理する必要がある。イベント利用者が併せて使うのか、個人がふらっと来て使うのか、キャンプを目的として使うのかを整理して考えないといけない。アンケートで目的が手段化してしまっているところが見受けられる。今後の大きな方向性としては民間活力ありきで進めると。そのうえで、ファミリー単位で来られる層をちゃんと取り込むのか、また、部活やイベント事の場として使ってもらえるのか。そこを整理して、アンケートや課題整理をしないと結局ごちゃごちゃになって今と変わらないということになりかねない気がする。

井上委員：はっきり言って大地沢に寄ってもつまらない。あることはわかっている。ハイキングコースには人がたくさんいるが、大地沢に寄ってもなにもないから降りてはこない。お風呂が入れたり、軽食があれば結構寄ってくれるが、なにもないから素通りしている。休憩スペースもない。直営では無理なので、やはり民間活力を導入して、楽しい、また行きたいという施設にしなければならない。地理的にはいいところだと思う。マウンテンバイクで源流を見に来る人たちを取り込んだり、やりようによってはものすごい宝である。テントサイトもあれでは魅力ない。(下の方で遊んでいると)本館まで行かないとトイレがない。または、水遊びができるとか、そういった楽しいところにするればものすごい発展性を秘めた場所だともう。

澤井委員：何をターゲットにするのか、今のような意見がこのアンケートでは浮き彫りにならない。テントに宿泊というのは目的ではなく手段である。なんのために宿泊したかという、家族の絆を深めたり、グループの仲間ではぐくんだり、機会としてのキャンプだったりというのが混在してしまっている。選んだ理由、選ばなかった理由、対象の、使った人、使わなかった人を分けて考えないといけない。

金子部会長：他の施設では、スポーツ選手を呼び込んで練習したり宿泊をしてそこから試合に行ったりしている所もある。大地沢の場合、出来るプログラムが限られているのでアンケートでは一つの質問で様々な内容を聞かなければいけないのかもしれない。

土田委員：利用者が減っているとのことだったが、以前は子ども会での利用が多かった

のではないかと思う。その子ども会が成立しなくなっている。最近子どもセンターなどの施設が充実しているので、皆そちらに行っている。大地沢はアクセスが悪いので、中心部から行きにくい。野外活動、ハイキング、宿泊、沢遊びができるというのがメリットなので、そういったところをターゲットにすればいいのではないか。学校としては川上村や林間学校に行ってしまうので、やはり子ども会などがターゲットになる。アウトドアというところでいうと、ひなた村でも宿泊はできないものの、カレーを作るくらいはできるので大地沢まではいかない。大地沢の強みをどう売りにしていくかということが大事。

子ども生活部長：ひなた村条例の改正を6月議会に上程している。今まで青少年施設だったものが、児童館相当に変わる。未就学児も対象とし、18歳までのお子さんが使えるという形になる。かつ指定管理制度に変え、民間活力で事業を広げる予定である。ひなた村と大地沢のすみわけができる形を考えていただきたい。

青木委員：昨年運営委員会で大地沢の魅力について議論した。一番の魅力は大戸緑地を含めた自然であり、市内の他の地域にはないものである。自然を守りながら活用しなければ、大地沢の魅力としての自然はなくなってしまう。日帰り入浴や一時休憩する場を提供することによっても収益が上がるのではないかという議論があった。そういった中で、自然を活用しながら利用していただくという方向性に持っていけないといけない。先日事務室でバスの時間を尋ねているご夫婦を見たが、もし利用できる施設があれば、お金を払ってでも利用しただろうと感じた。そういったものがあれば、高尾の方からきて、大地沢で休憩して帰るというのものもあるのかなと思う。

澤井委員：キャンプ場がいろいろある中で選ばれていくためには、市の施設ならではのことで、例えば初心者に手厚いとか、小さいお子さんがいるうちには、ステップアップの場として、ソフト面で勝負するのはどうか。ちょっと行けば道志川があつて、そこには温泉が併設されていたりするキャンプ場はいっぱいあるので、なにか違うメニューで勝負しなければ厳しいのではないか。初心者向け、またはふらっと来て手軽にできるというのがいいのでは。

金子部会長：ビジターセンター的なものを担うものがあると良いのかもかもしれない。

大地沢青少年センター所長：大地沢の欠点としては、予約しないと使えない部分がほとんどである。

馬場委員：アンケートに「既存施設の有効利用」とあるが、既存施設を利用することが前提となるのか。またターゲットとして、青少年センターということが前提となるのか。

大地沢青少年センター所長：土砂災害防止法により、施設を新しく建てるためには、土

砂災害が起きないような、山を全部コンクリートで固めるなどの工事が必要になる。それは難しいので、建物を建て直すことはできないが、リフォーム程度の改修はできる。そういった背景があるため既存施設の活用となっている。また、青少年については、青少年センターという位置づけを堅持するのか、外していくのかということも、この会議で議論していただければと思う。先ほど初心者向けのプログラムのご意見をいただきましたが、利用者には大人向けのプログラムやステップアップコースへの要望もいただいている。

平山委員：今大人向けという話があったが、地元の人と話すのは、あそこに行ってもなにもないということ。ビール1杯飲めるわけでもない。そういったところも考えてもらえると利用もできるのかなと思う。連合会の研修会でどこに泊まろうかとなった時も、大地沢はお酒がでないということで、結局相模原の施設を使った。川上村の施設を利用した時も、食事の延長ということでいただいた。民間の旅館と違って色々な料理が出てくるわけではなくても、食事の中でお酒をいただけるといいという話になった。大地沢は青少年ということで網をかけているのであったら、青少年を取って大地沢センターでいい。青少年というところに重きが置かれているうちは、人は呼べないのかなと思う。

子ども生活部長：青少年施設でもお酒は出せる。ただし、青少年施設ということで、制限をかけて出す形になる。今回の検討では、市民にとってより良い形にするために、青少年施設ではない方が良いということであれば、ないということでお話していただければと思う。必ずしも青少年施設を続けなければいけないということではない。施設に関しては、自然でそのままだが一番良いので、土砂防の関係で崖を固めるというのは合わない形かと思う。建物の中は改修できる。たとえば、20畳の部屋を小さくするとかそういった修繕は可能である。

平山委員：野外での調理については、保健所は異常なほど厳しい。大地沢夏まつりでの大地沢汁を、来る人は楽しみにしているが、あそこで作れないとなるとどこで作ればいいのか。

川口委員：2年前から、具材は本館で切って、保冷の箱に入れて運び、野外炊事場で調理している。

平山委員：大地沢夏まつりの際に料理ができるような場所をそばに作れるのであれば検討していただきたい。

井上委員：いろんなプログラムがあればもっと人を呼べると思う。今のままでは難しいと思うので、民間活力を導入すればよいと思う。子どもも大人も楽しめるプログラムがあれば良い。

金子部会長：全国にある国立青少年自然の家ではお酒が飲める。また職員はコンシェルジュのようにプログラムなどの案内をしている。まるでホテルを安くしたよ

うな感じになっている。指定管理者で運営しているが、日本の施設はこうなっていると思う。また連泊OKなので中国の方などが長く滞在している。大地沢も3泊だけでなくもうちょっと可能にしてはどうか。先ほど事務局が説明した地域資源を観るだけでも1日かかる。

(3) 利用者アンケート及び他自治体等への調査について

[資料2、資料3の説明]

平山委員：民間を活用していこうと言ったときに、相原は大きな工場があるわけでもないし、大勢雇える企業があるわけではない。そういった中、地元でやれる方法を考えていただければと思う。

澤井委員：商売でアンケートを取るときは「利用したのはなぜですか？」と聞く。キャンペーンをしようと思ったのはなぜですか？と聞くことで選ぶ理由が見えてくる。2回ぐらい聞くと、選ぶ理由が見えてくる。そういった工夫が必要。

関野委員：このアンケートの結果、大地沢がどこに向かいたいのかかわからない。この先このデータをどう活かしていこうかというところをこのアンケートを作るときに考えていたのかを聞かせていただけると意見が言いやすい。

大地沢青少年センター所長：現在のサービスに対して、どんな改善が必要なのか、新しい事業展開が必要なのかということを知りたいということがある。

金子部会長：3,000人出すと、割合を聞くと使った人が700~900人程度になると思う。3分の2位が使ってない人の回答となるかもしれない。

関野委員：小野路の里山交流館はほぼ地元の人だけでNPOを立ち上げて運営している。うどんやコーヒーの提供があるが調理場でも小野路の主婦の方が働いていたりする。里山交流館の現状を見ていると、大地沢でも指定管理者を受けられる法人なり団体を立ち上げればできるのではないかと思った。

観光まちづくり課長：観光まちづくりとはなにかと言ったときに、地域の方が主体となり、地域資源を活かすというところがある。その点で里山交流館は成功事例であると認識しているが、大地沢においてもそういった視点を視野に入れて考えられてもと思う。

青木委員：アンケートに戻るが、設問数が33問あるのは多いので、もうちょっと集約できないか。利用していない方がどうしたら利用するかというところと、利用している方が、どうしたら再度利用するかといったことがクロス集計でわかるようなものがないのではないか。これではクロス集計するのが大変ではないかなと思った。データをどう活用していくかの視点から、もう少し整理が必要ではないか。

金子部会長：クロス集計をする上で複数回答をどう処理するか。利用したことがある人

も利用したことがない人も同じ項目を答える中で、大地沢の場所すらも知らないような人の方がむしろ多くなってしまっているのでちょっと大変かもしれない。

青木委員：利用しない方は周知がないから知らないのか、広報やホームページを見ないから知らないのかも重要になってくる。

澤井委員：キャンプが好きな方で、なんで選択しないのか聞いてみたらどうかとも思ったが、無作為なら少し変えた方がいいかもしれない。

金子部会長：大学で専門的にやる場合は5段階や7段階で程度を付けるがこれはマルかバツか。クロス集計した結果どれだけ出かわからないが、選ばれた回答、選ばれなかった回答には重みが出る。

関野委員：問9で利用したことがない、を選んだ人は問21へ行くが、これは大地沢をすごく知っている人が答えるような感じになっている。そもそも大地沢ってなんですか？という人もいると思う。「8 WiFi等の環境が未整備」とあるが、そこまで知っていて行ったことがないということはないと思う。Wi-Fiがあるかどうかというのは行ってみてわかるので、行ったことがないということはないと思う。それよりも、「大地沢のことなんて聞いたこともありませんでした」ぐらいの回答があった方が、PRができているとかできてないとか、何割しか知らないとか、そういうことの方が重要だと思った。

馬場委員：問20は利用者アンケートであるから、利用者に聞けばよいのでは。また、交通のことが聞かれていない。

井上委員：アンケートによってなにを浮き彫りにしたいのか。

大地沢青少年センター所長：今後進む方向性を導き出したいというのがある。交通についても聞きたいところだが、解決できないことを聞いても難しいのかなど。

事務局：利用したことがある人に対しては問10で交通手段を聞いている。知っているけど利用したことがない人には問21で「6 施設までのアクセスが不便である」というところで聞こうかと思っている。

金子部会長：毎年8月は利用者が多いのでそこで聞くと利用者の意見が素直に聞けるかなと思うが、無作為ということ考えると、そこに故意が入るので無作為でなくなってしまい難しい。ただ、使ったことある人ない人無作為で3,000人となると、そこに何の意見を聞くかわからなくなってしまっているので、そこが懸念される。

馬場委員：便利だから来るのか。便利イコール人が来るということだけに絞ってしまうと対象が限定されてしまうのでは。

大地沢青少年センター所長：お客様と話している中で、ハイカーは便利ではない山にたくさん行っている。相原から大地沢へ行くバスが40分に1本なんて便利な方ですというお話もある。人によって便利、便利ではない、こういうところでも行きたい、行きたくないとあると思うので、魅力が何なのか、どうして

も来たいというところ、不便でも来たいというところをどう作るかが一つの課題だと思っている。

川口委員：青少年健全育成委員会の中で聞いた話だが、つくし野地区の方が毎年大地沢を使っていた。1回だけ違うところを利用したが、やはり大地沢がいいということで戻ったとのこと。地区委員会で子どもを50人位連れていくのに、大地沢は手ごろで自然もある。1時間以上かけて大地沢まで行くということはそれだけ魅力があるということなので、有効活用していただければと思う。そこから大地沢夏まつりにつながっていくと活性化するのでは。

関野委員：この時代であればWi-Fiはスタンダードとしてあって然るべきではないのか。電波が悪ければ尚更ではないか。聞いてもいいが環境整備というのはスタンダードとして取り込んでほしい。問28の洋式トイレは、今の時代はなければだめなのではないか。回答がなかったからやらなくていいや、ということにはならないのではないか。

大地沢青少年センター所長：電波状況については本館では大手3社入はる。ハイキングコースは1社入ることは確認している。

関野委員：自然環境のなかではしょうがないと思うが、施設に立ち寄った時に、サービスとしては標準としていいのではないか。

金子部会長：問21について、立ち位置を統一した方がいいのでは。マイナスのことを書いてしまうと、そのことに気が付いてしまうということもある。細かいことは聞かない方がいいように思う。

平山会長：虫がないという項目はナンセンスでは。

大地沢青少年センター所長：最近はビルの中でキャンプをすることなどもあり、そういう傾向から入れた。

4 その他

大地沢青少年センター施設見学会について

[大地沢青少年センター施設見学会について説明]

5 閉会

子ども総務課担当課長：アンケートのご意見はメールにてお送りいただければと思います。次回の会議は、10月11日（木）となります。場所は同じく、市庁舎3階防災情報司令室2となります。以上をもちまして、2018年度第1回町田市子ども・子育て会議大地沢青少年センター検討部会を閉会します。